

## ■ VISTA 1 ユーザーレポート

中京テレビ放送株式会社 様

VISTA 1 - 32



新音声中継車に VISTA 1 を採用



中京テレビ放送株式会社  
技術局 放送技術部  
和田 拓也

### 更新への道のり

平成元年完成の旧音声中継車は完成から24年が経過し、車両を含めた更新を長年に渡り要望してきました。事実、私が入社した頃にも音声中継車の更新は設備投資の議題として挙がっていたのですが（その時点で導入から既に17年経過）、稼働率の低さや製作費用が問題となり、一旦は凍結。しかし、音声中継車がなければ今まで積み上げた技術は途絶えてしまうという想いと、他部局からの後押しのおかげで新社屋計画の本格化を迎える前に更新の運びとなりました。

### 音声車コンセプト

・製作費削減の為、保冷車をベースに改造を施



しスポーツ中継、音楽番組制作に耐えうるミキシング空間を作る。

・車体を外側に広げる事は出来ない為、音響性能を取るか、居住空間を取るかギリギリのせめぎ合いの中、2chステレオ運用を基本としながらも、スポーツ中継などサラウンド運用も考慮した、2ch/5.1chの親和性の良いミックス環境の構築。  
・今後の拡張性を考慮した設計。

### 卓の選定ポイント

・第一に製作費の問題がありました。VISTA 1は本体自身の価格の魅力に加え、全ての入出力を本体背面に備えている為、結果的にワイヤリング費用を抑える事が出来ました。  
・保冷車をベースとしている為、奥行き・幅ともにスペースが限られており、その条件下でいかにモニター環境を確保するか苦慮し、LRスピーカーの設置位置を重視しました。その上でモニター・計器類の視認性を確保する必要があり、デスク表示部分が物理的に低い事が重要でした。  
・弊社には既にD950M2、VISTA 6、VISTA 7が2台とSTUDER社製品が多く導入されており、オペレーター達は何の抵抗も無くVISTA 1を操作する事が出来ました。トレーニング期間が不要であった事もこの卓を選ぶ大きな理由となりました。

### 運用を開始して

今更ではありませんが、デジタル卓は設定を読みだせばその時点で卓のセッティングは完了しており、中継のセッティング時間の大幅な短縮に貢献しています。スタジオと違い、中継先ではPAや共同分岐など様々な用途の信号を分配するシーンがあり、CONTRIB機能が素早い信号確認に大変活躍しています。また、コントロールペイのVISTONICSの部分に任意にフェーダーを配置する事が出来る為、32フェーダーでは若干物足りないかなという現場でもフェーダー数の少なさを補う事が出来ています。運用がスタートしてから3カ月。夏のイベントも無事に乗り越え、安定稼働継続中です。我々としては、この音声中継車はまだ未完成の状態だと考えています。今後VISTA 1の機能をフルに使って機能拡張させて行く事を楽しみに、その為にはより多くの中継をこなしていきたいと思っています。

